情報セキュリティ白書 10大脅威

2019年(個人)

1位 クレジットカード情報の不正利用 ～継続する悪用の被害、被害が拡大するおそれ～

犯罪グループ・犯罪者
→　個人(クレジットカードの利用者)、組織(サービス事業者、クレジットカード 会社)

<攻撃手口>：ウイルス感染、フィッシング詐欺

<対策/対応>：被害の予防、被害の早期検知、被害を受けた後の対応

2位 フィッシングによる個人情報等の詐取 ～有名企業を装い偽サイトへ誘導、横行するフィッシングメールに注意！～

犯罪グループ・犯罪者
→　個人(インターネット利用者)、組織(クラウドサービス事業者)

<攻撃手口>：攻撃者が用意した偽のサイトに情報を入力させて窃取

<対策/対応>：被害の予防、被害の早期検知、被害を受けた後の対応

3位 不正アプリによるスマートフォン利用者への被害 ～実在の企業をかたり不正アプリのインストールへ誘導～

犯罪グループ、犯罪者(ストーカー等)
→　個人（スマートフォン利用者）

<攻撃手口>：不正アプリのダウンロードサイトへ誘導、公式マーケットに不正アプリを紛れ込ませる

<対策/対応>：被害の予防（被害に備えた対策含む）、被害を受けた後の対応

4位 メール等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求 ～仮想通貨などを要求する詐欺メールには冷静な対処を～

犯罪グループ　→　個人（インターネット利用者）

＜攻撃手口＞：メール等に金銭を要求する脅迫、周囲に相談しにくい「セクストーション(性的脅迫)」、受信者の情報を記載、電話でさらに追い込む

<対策/対応>：被害の予防(被害に備えた対策含む)、被害を受けた後の対応

5位 ネット上の誹謗・中傷・デマ ～投稿前に内容を再確認、軽い冗談のつもりが社会問題になることも～

情報モラル・情報リテラシーが低い人、悪意を持っている人
→　個人、組織(教育機関、公共機関、企業)

＜要因＞：情報モラルや自己抑制力の欠如、個人が匿名で発信できる場の増加、情報の真偽を確認せずに拡散

＜対策/対応＞：情報モラルや情報リテラシーの向上、法令順守の意識の向上、・情報モラル、情報リテラシーの教育、・被害を受けた後の適切な対応

6位 偽警告によるインターネット詐欺 ～ 落ち着いて！あの手この手の騙しの警告画面～

犯罪グループ → 個人(インターネット利用者等)

＜攻撃手口＞：巧妙に細工が施された偽の警告画面、偽対策ソフト(偽セキュリティソフト)、サポート契約詐欺、スマホアプリのインストールへ誘導

＜対策/対応＞：被害の予防(被害に備えた対策含む)、被害を受けた後の対応

7位 インターネットバンキングの不正利用 ～ 被害は継続して発生、しかし減少傾向に～

犯罪グループ、犯罪者
→　個人(インターネットバンキング利用者)、組織(インターネットバンキング利用者)、組織(金融機関)

＜攻撃手口＞：ウイルス感染、フィッシング詐欺

＜対策/対応＞：被害の予防(被害に備えた対策含む)、被害の早期検知、被害を受けた後の対応

8位 インターネットサービスへの不正ログイン ～ 多要素認証や多段階認証等を利用して攻撃に備えを～

犯罪グループ、犯罪者(ストーカー等)
→　個人(インターネットサービス利用者)、組織(インターネットサービス運営者)

＜攻撃手口＞：パスワードリスト攻撃、パスワード推測攻撃、ウイルス感染

＜対策/対応＞：被害の予防、被害を受けた後の対応

9位 ランサムウェアによる被害 ～ランサムウェアに感染し、思い出の写真や知人の連絡先情報等が閲覧不可に～

犯罪グループ、犯罪者 → 個人、組織

＜攻撃手口＞：メールからの感染、ウェブサイトからの感染、脆弱性を悪用したネットワーク越しの感染

＜対策/対応＞：被害の予防、被害を受けた後の対応

10位 IoT 機器の不適切な管理 ～増え続けるIoT 機器を悪用する攻撃～

犯罪グループ → 個人(IoT 機器利用者等)、組織(企業、IoT 機器利用者)

＜攻撃手口＞：初期設定のままのIoT機器へ不正アクセス、脆弱性を悪用した攻撃、ウイルスを用いた攻撃、覗き見や盗撮

＜対策/対応＞：情報リテラシーの向上、被害の予防、被害を受けた後の対応

Source ➔ https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2019.html

2018年(個人)

2017年

2016年

2015年

2014年度

2013年度

2012年度